

UA神奈川学習センター はるだより

通巻第42号

2010年4月発行

発行:放送大学神奈川学習センター 〒232-0061横浜市南区大岡2-31-1



Bangladesh デッカ市街(6~7ページに関連記事)

目次:

春だよりに寄せて	神奈川学習センター所長 渡邊 慎介	2
サポーターへの感謝	放送大学准教授 原田 順子	3
「放送大学 卒業式」学歌斉唱に参加して ほか		4
学習センターニュース (渡邊所長講演会「学問のススメ」/ フォスタープラン講演会と映画鑑賞会/入学者の集い)		5
Bangladesh 寸描		6~7
放送大学と世界30ヵ国1年3ヵ月の旅		8
K-サポート活動発表会/K-サポートからのお知らせ		9
学生サークルからのお知らせ/同窓会からのお知らせ		10~11
学習センターからのお知らせ		12

春だよりに寄せて

神奈川学習センター所長 渡邊 慎介

春は自然のよみがえる、再生・再出発の季節です。木々は芽吹き、また自慢の花をつけます。放送大学神奈川学習センターもまた、新しい季節を迎えます。3月に193名の学部卒業生・大学院修了生を送り出したばかりですが、4月には新たに1500名を超える入学生を迎えることになりました。昨年より多くの学生を受け入れ、まさに、新たなスタートにふさわしい今年の4月です。

どうして学ぶのでしょうか？私が、つねづねみなさんに問いかけている言葉です。学びによって生まれ変わり、新しい自分を表現するため。自分の意見を自分の言葉で言い表すため。さまざまな答えが、この問いに対して返ってきます。

3月27日、NHKホールで開催された放送大学卒業式に引き続き、卒業・修了を祝う祝賀会がホテルニューオオタニで催されました。その祝賀会の会場で、神奈川学習センターに所属する卒業生の一人が卒業の喜びを私に語って下さいました。「卒業するまで、学びを続けてきてよかった。学んで得た知識を仕事に役立てることができるだけではなく、文章を書くことも苦にならなくなりました」と、いきいきと話していました。前向きな姿勢がとても印象的でした。

そうです。学びは生き方を深めます。学びは生き方を変えます。学ぶこ

とは、そんな大きな力を生み出しません。だから、無理をしてまで勉強をする価値はあるのです。

人を変える力を持つ学びを、どうすれば継続できる

のでしょうか。それには、一つの大切な条件が必要のようです。強制されて勉強するのではなく、楽しく学ぶ姿勢がその条件であるような気がします。楽しいと思うから学んだことが身につく、またさらに勉強する意欲がわく。学びを推し進める原動力は、学ぶ喜びにほかなりません。そして、この学ぶ喜びを引き出す役割をするのが、学ぶ目標でしょう。

新入生の方も、在生の方も、それぞれの目標を持って放送大学を選びました。目標の実現は、しかしながら決して容易ではありません。さまざまな困難が待ち受けています。学びを続けられなくなる困難にぶつかったなら、是非、相談に来て下さい。

一人でも多くの方々から、何年後かの卒業・修了祝賀会で、卒業の喜びを伺いたいと思っています。



放送大学神奈川学習センター所長
渡邊 慎介

サポーターへの感謝

放送大学准教授 原田 順子

神奈川学習センターで平成19年度に産声をあげたK-SUPPORTは着実に成長し、早3年が経ちました。その間、様々なことがありましたが、活動が深化・発展してきたことは間違いないでしょう。

平成22年3月に、本部セミナーハウスにおいて活動報告会が開催されました。実に素晴らしい熱意をもって、K-SUPPORTの皆様が「放送大学をもっと良くしたい」と励んできたことに感謝の念を抱いています。報告会の発表では、サポーターの方々の指摘の中に、私の気付かなかった点も多くありました。学習センター所属教員にとって、今後の参考になる貴重な情報でした。

さて、私はサポーターという名称は、言い得て妙であると感じています。ご存知のとおり、サポーターはサッカーで使われる言葉です。「横浜マリノスのサポーター」というように、あるチームを応援する人を指します。サポーターという語は、ファンという語よりもチームとの一体感があるように、私は感じます。その点が、K-SUPPORTを的確に表しています。全国各地の学習センターに多彩な学生サークルがあります。しかし、ほとんどは趣味のサークルです。そもそもサークルとはそういうものなので、それで結構なのですが、K-SUPPORTの場合は見ず知らずの新入生を含む他の学生、あるいは大学全体に意識が向いている点が特徴的です。言葉通り、まさに「サポーター」であると思う所以です。今まで

のサポーター活動に感謝するとともに、今後の継続と一層の発展に期待しています。

ところで今年は、南アフリカ共和国でサッカーのワールドカップが開催されますが、8年前、日韓共同開催されたことを思い出します。そのときのエピソードで私が忘れられないのは、アルゼンチン・チームのことです。アルゼンチンは優勝候補でしたが、あえなくグループリーグで敗退しました。スター選手のバティスタは、会見で、真っ先にサポーターに謝りました。「今、アルゼンチンの社会・経済の状況は悪いので、サッカーで勝って、国の子どもたちに夢を与えたかったのですが、力が及びませんでした」と言うのです。当時の私にとっては、サッカー選手の社会的役割が日本と違うということが印象的だったのですが、今は、熱烈なサポーターには、真摯に期待に応えようとするチーム（プレーヤー達）が対になっていなければならないということを思います。活動報告会に参加して、立派なサポーターにふさわしい存在に近づけるように、研究に精進しなければと身が引き締まる思いがいたしました。



【新任教職員紹介】 放送大学神奈川学習センターに平成22年4月1日付け採用になりました。どうぞよろしく願いいたします。

教 員		事務職員	
客員教授（建築学）	青木博文	総務係長	石塚広明
〃（植物生態学）	藤原一繪	総務係員	三和田智美

【退任】 右記の方は神奈川学習センターを退任されました。K-サポートへの支援を含め多大なご尽力に感謝いたします。（編集部）

事務職員	
総務係長	福島清美
総務係員	川上妙子

「放送大学 卒業式」学歌斉唱に参加して

神奈川合唱団特別会員 金田 保男

♪ 参加のいきさつ

平成21年度学位記授与式(卒業式)式典にて“学歌斉唱”が予定され、連合同窓会および神奈川合唱団のみでは人数不足により、合唱団OBおよび各サークルに応援要請があり参加することになりました。とはいえ、合唱は小中学校以来のことで戦力にはならず、人数合わせの状態です。

♪ 神奈川合唱団事前レッスン

学歌は今まで何度か聞き“いいメロディー”と思っていたが、難しく歌うことは出来なかった。合唱指導「新井ゆう子」先生は、教え方が大変上手な人で、呼吸・発声法等私のような素人にも判るよう教えて頂き、また合唱団の方々からも指導して頂きました。何年ぶりかの合唱は、身体も声も廃用症候群に陥っており、当初殆ど声が出なかった。いわゆる“湿性嗄声=かすれ声”が始まっている様子ですが、練習により声も出る様になり、気がつく消化器系も快調です。



♪ 本番 学歌斉唱

卒業式前日及び当日、合同リハーサルを何度も行い本番に備えます。本番では、「顔はまっすぐ前を向き、視線はタクトを見て、声は上方に向け発する」のだそうです。私には、そんな器用な真似は出来ません。

NHKホールの舞台に上がって感動しましたか？ いいえ私には感情が入る余裕はありません。ただ、間違わずに無事終える

ことが出来て良かった！

♪「音楽」は、一人ひとりの人生そのもの
私の娘は、「介護センター」で時々バイオリン演奏を行っていたが、特に「日本の名曲」(浜辺の歌など)を弾くと、涙を流す方が多いという。それは自分の幼い時代の情景が甦り自然に涙が溢れるようです。自分が歌った事のある曲は、自分そのもの=人生そのものなのでしょう。

私の人生に「学歌」という新たな1ページが加わりました。学歌を歌えるようになると、放送大学学生意識もできます。「神奈川合唱団」の存在は大きい。もし入学式、卒業式、学園祭(フェスタ・ヨコハマ)の“学歌斉唱”に合唱団がいなかったら、何と味気ないものになっていた事だろう！

平成21年度学位記授与式(卒業式)

3月27日(土)NHKホールで、平成21年度放送大学卒業証書学位記授与式が行われました。

卒業、修了生代表が登壇して卒業証書・学位記授与

のあと、石学長の式辞、来賓の祝辞、卒業・修了生の謝辞、学長表彰と続き、放送大学神奈川合唱団他による学歌斉唱と続きました。そして、最後に、放送大学イメージソング「とも・た・ち」「人生の贅沢、ひとつ」と「流されはしなかった」の3曲が演奏され卒業生のみなさんは卒業の感慨を胸に聞き入っていました。

神奈川学習センターでは、平成21年度2学期、学部生165名大学院生28名の計193名の方が卒業・修了となりました。(21年度1学期2学期合計では、学部生274名大学院生28名の計302名が卒業・修了しています。)



イメージソングを歌う
小椋佳さんのステージ



渡邊所長講演会「学問のススメ」

2月28日(日)神奈川学習センター第8講義室にて、神奈川サークル協議会主催による神奈川学習センター渡邊慎介所長 公開講演会「学問のススメ」が開催されました。

講演は、西洋人と東洋人のものの見方考え方をはじめ。西洋人は、中心となるものを見る分析的な考え方をするのに対して、東洋人は、中心となるもののみでなく周囲との関係性も重視する包括的なものの見方をする。包



括的なものの見方は、個性的な人を受け入れにくい面もあり理論物理学の湯川秀樹博士や数学の上田皖亮博士は、はじめ海外で認められた。

福沢諭吉「学問のススメ」初編で、賢い人と愚かなる人の違いは学ぶか学ばないかによって決まる。一生懸命やるべきは普通の生活に役立つ実学である。そして、みなさんはどうして学ぶのか？を会場に問われました。それからの後半は1時間近い質疑応答の時間がとられ、参加者と先生の間で熱心な質疑が続きました。講演の終わりには主催者から花束が贈られ会場からは感謝の拍手が起こりました。



フォスタープラン講演会と映画鑑賞会 放送大学神奈川同窓会 高橋 照夫

2月28日、昨年に引き続き、サークル協議会との共催で講演会と映画鑑賞会を開催しました。

講演会は(財)プラン・ジャパンの津田恵美氏をお招きし、08年から取り組んでいる新方式『スクールスポンサーシップ』について、ベトナムにおける実施状況を映像を交えて現地の報告をいただきました。

この新しい試みは、現在ベトナムですが、良い効果が現れているように感じられ、興味深いお話でした。

映画鑑賞会は、講師に横浜映画研究会会員の西浦久晏氏(同窓会会員)による講演と氏の選定による映画鑑賞でした。

講演の演題は『映像文化(映画)と文字文化(文学)』、映画鑑賞はイギリス映画『日の名残り』。この作品は、英国の名門家に一生をささげた老執事の半生を回想する人間ドラマですが、主人公アンソニー・ホプキンスの繊細な演技、時代背景の丁寧な説明、舞台となる貴族屋敷の生活の様子など見所が満載で、あまり知られていないがかくられた名作で、参加者からは大変よい作品という感想が寄せられました。



平成22年度1学期入学者の集い



4月4日(日)改装されて間もない神奈川学習センター第8講義室にて入学者の集いが開催されました。会場には近年にない大人数、261名の新入生が集い、空きスペースに椅子を並べるほどでした。渡邊所長のお祝いの言葉の後、教職員の紹介、合唱団による学歌斉唱と続き最

後は、サークル紹介で締めくくられました。超満員に拘わらず多くの新入生が最後まで聞き入っているのが印象的でした。早く放送大学に慣れて、それぞれの学習目標を達成されることを願っています。



バングラデシュ寸描

人間と文化コース 石橋 正彦

朝起きると「キョロロローン」というような鳥の音が良く聞こえる。アカショウビンの鳴き声、と思ったら近くの木に大型のカワセミがとまっていた。日本のカワセミに比べて、ずいぶん大きく、胸から腹にかけて白い。背の青さも日本のカワセミのような翡翠色ではなく淡い。同じカワセミの仲間なので、アカショウビンの鳴き声と似ていても当然か。広場を見るとムクドリのような茶色の鳥が沢山。飛ぶ時に抔げた翼にカササギのような白い模様。図鑑を見るとMagpie Robinとなっていた。日本にはいないので、カササギコマドリとでもいうのか。この鳥は国鳥とされており、2タカ紙幣に印刷されている。因みに国の動物はベンガルタイガーであるが、これは当然であるが、そう簡単には見られない。また国の花は蓮であるが、これも見ることが出来なかった。鳥の種類も豊富であったが、宿舎の近くにはアカゲザル (Rhesus monkey: このサルは血球を凝固させる因子を持つ人がRh+である) の大きな群れもいた。このサルはニホンザルと同じマカカ属に属するので、アカゲザルの方が尾が長い以外、よく似ている。



私はこの度日本ボーイスカウト連盟から指導者として、団長と全国から応募したローバースカウト (18~25歳、今回は全員が大学生) 8名と共に派遣されて約2週間バングラデシュに行ってきた。このプロジェクトはバングラデシュ連盟 (バ連) との契約の下にバ連スカウトとの交流、そして農村部に行って健康・栄養・環境などに関してバ連スカウトと共に啓発活動を行うもので今年で13回目。活動に関しても沢山書きたいこともあるが、字数制限のため別の機会に譲る。

私はこれまで39年間ボーイスカウト指導者として奉仕してきたが、海外派遣は初めて。しかもこの4年ほどは2度の大手術後の病み上がりで海外渡航もしてこなかったのも、冥土の土産の冒険と思って参加した。前回バングラデシュに行ったときは、行ってすぐに食中毒による下痢 (生野菜のサラダのせい?) に見舞われ、滞在中ずっとひどい目にあったので、ともかく下痢をしないことが最大の課題でもあった。

下痢といえば、首都ダッカには世界で唯一のWHO傘下の国際下痢性疾患研究所 (International Center for Diarrhea Disease Research-b) があり、赤痢、コレラなどの伝染病、細菌・ウイルス・寄生虫などの感染による食中毒や下痢などの他、旅行者は暑さや疲れから来る下痢だけでなく、毎日出されるカレーの辛さから来る胃腸炎と、下痢の原因には事欠かない。この研究所を見学した際、案内し



て下さった医師は宮崎大学で11年学んだという方で、巧みな日本語を交え、丁寧に説明をして下さった。患者はほとんどが母親に連れられた乳幼児で、運営経費はすべて寄付に頼っているため、診察・検査・治療は無料の由。貧困から来る母親の栄養不足、低体重出産、感染、など日本では想像もつかない状態を見るにつけ、途上国の貧困問題を実感させられた。

ダッカでは都心にあるバ連会館の6階の宿泊施設に泊まったが、朝からギャーギャーというさい鳴き声。見ると頭から肩にかけて灰色のカラスが沢山群れていた。このカラスは日本にはいないhouse crow (イエカラスとでも

言おうか)で、いくらでもあるゴミの山をつついていた。日本でよく見るハシブトガラスもいたが、少数派であった。面白かったのは、野生のマンガースが走り回っているのを敷地内で2回も見たことで、おそらくゴミの山には餌になるネズミが豊富にいるからであろう。

会館は大きな通りに面していたが、その通りがすごい。3車線なのだが当然のように4列走行。人がこぐ三輪のリキシャ、動力の付いたモーターリキシャ、そして人と車が雑然と行き交っている。

信号が赤でも進む。どうも前に走っている車は必ず追い抜くこと、というルールがあるのではないかと考えてしまうほどクラクションを押しっぱなしで割り込む。当然うるさいことおびただしい。まさに混沌、カオスである。車道と歩道の間には悪臭を放つ黒い水とゴミ。警官が木切れを持って交通整理



していたが、通りをわたるのは誰でも命がけ。とうとう滞在中、車で行くか、バ連の人に連れられて出かける以外、会館の敷地から買い物など勝手に出る勇者は誰もいなかった。

これに対して、農村は静かで、稲作の3期作で田植え、青々とした水田、糶干しを同時に見ることが出来た。農家にとって畜牛も重要で、搾乳



だけでなく、糞を燃料として使う。この地帯はコーヒー袋などに使うジュート麻の産地で、皮をとった後

の1メートルくらいの長さの幹に竹輪のように牛糞を練りながら巻きつける。これを道端に並べて干すのであるが、それこそどこに行っても干してあるといった感じ。燃すと匂いもなく大切な燃料とのことであった。



近くに青々とした水田があったが、50年程前はそこは大河であったとのこと。この国はガンジス川の河口デルタ地帯が国土の大半。そのため、上流のインドでダムが出来れば水が来なくなり、地下水に海水が逆流してくる。おかげで農村部に滞在中は塩水シャワーで、石鹼は泡が立たず、いつも何となく体がべとべと感。逆に上流で大雨が降れば洪水になる地帯も多い。おまけに地下水に自然に含まれる砒素、地球温暖化に伴う海面上昇による国土の減少、サイクロンの襲来による災害など水に関する問題は枚挙に暇がない。

私達が行った2~3月は春とのことであったが、炎天下、温度計を下げたら、なんと48度。日陰でも32~35度。夏になったら一体何度になるのやらと思わされた。

安心して飲める美味しい水を洗濯やトイレにまで使い、また安心して交差点が渡れる日本の安心・安全・平和を本当に皆で体感してきた旅であった。若い内に途上国を見てきて、改めて自分達の周りを見回し、何が出来るのか、何をしなければいけないのかを考えることの意義は本当に大きいと思った。



※ダッカ市街の大通りの風景は、表紙写真(1ページ)として掲載しています。

放送大学と世界30カ国1年3カ月の旅

長谷川 智美

放送大学入学のきっかけは、ただ色々な事が知りたくて、気が付いたら願書を出しておりました。入学してから、勉強について行けるか、卒業に必要な124単位を取得できるか、不安でした。研修旅行や面接授業で様々な方と出会い、お話ししているうちに、いつしか不安も和らいでゆきました。中でも、1歳位の小さなお子さんがいらっしゃる、家事・育児・フルタイムの仕事・放送大学、と4つも頑張っている方には、頭が下がる思いでした。それに比べたら私なんて大変な内に入らない。とても励まされました。知りたい事を知って行く内、気が付いたらもう卒業。振り返ると入学してから卒業までの4年半、あつと言う間でした。

放送授業は2年半受講し、残りの2年を旅に費やしました。勿論、入学した初めての学期は、全てが初めてで右も左も解らないので少なめに。私は、放送授業を6科目受講しました。その中に語学を1科目取り、毎日繰り返しました。語学は毎日の積み重ね。大変な事から先に。放送授業は全て、テレビ・ラジオ共にDVDへ録画し、1.5倍速で全講義視聴しました。慣れれば速く聴く方が頭に残り、時間の節約にもなりました。台所仕事をやる時はいつも、長いイヤホンをして、目と耳で放送授業を視聴しながら体を動かしました。何かしながらなんて、授業をしてくださる先生方に失礼だ。と一見思われるかもしれませんが、聴き取れなかった言葉や視逃した箇所は必ず巻き戻し、しっかり理解する迄何回でも傾聴します。その後テキストを読み解らなければ、解るまでテレビ・ラジオを再視聴し直しながらテキストとにらめっこしました。体を動かしながらすれば眠くならず脳が活性化し、相乗効果で左脳での論理的な勉強も理解し易く覚え易いです。

好きな事をしているうち、幼い頃NHKのシルクロードを見て、『行きたい。』と思った事を思い出しました。『今だ。今、行こう。』『中国・中央アジア5カ国・イラン・トルコ・ブルガリア・ルーマニア・ハンガリー・オーストリア・イタリアのローマへと、ユーラシア大陸横断の旅』への欲求を満たしました。モーゼが十戒を授けられたシナイ山のあるエジプト、旧約聖書に描かれた街があるシリア、



エジプトのシナイ山頂より
st. カテリーナ山を望む

キリストが洗礼を受けたヨルダン川のあるヨルダン、雄大なサハラ砂丘の広がるモロッコなども、探訪しました。世界中何所に行ってもその土地に住む人々の、輝く笑顔と暖かい優しさと沢山の善意に支えられ、そのどれもが貴重で有り難く、本当に素晴らしい体験をさせて頂くことが出来ました。



ヨルダン川(手前がヨルダン、対岸はイスラエル)



モロッコのサハラ砂丘

私は放送大学に4年半在学し、その在学期間中に訪れた国は世界30カ国。計6回の渡航で延べ日数456日＝1年3カ月間、バックパッカーで世界を旅しました。

大学で学び、実際に旅して行ってみる。戻って足りない所はまた大学で勉強する。知る喜びはとても楽しく、大変有意義で充実した学生生活を送る事が出来ました。

5年前には、自分が大学で勉強する事、長い沢山の旅をする事、全ては思いも寄っていませんでした。やってみて良かった。楽しく嬉しく素敵な思い出になりました。皆様も、何か心で気になっている事、好きだけどしていない事、過去にしてみたかった事、してみたいのに躊躇している事、はありませんか？案ずるより産むが易し。『どんな事でも今、やってみませんか？きっと楽しくて嬉しくて、ウキウキしますよ！』

素晴らしい学びの機会を与えてくださった放送大学関係者の皆様、共に学び合った放送大学学生の皆様へ、心からの感謝を贈りますと共に、放送大学の今後益々のご発展と、皆様の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



トルクメニスタンの子供達

2009年度Kーサポート活動発表会

3月6(土)・7(日)の両日、2009年度のKーサポートの活動発表会が、本部の濱田教授、坂井教授をお迎えし、当学習センターの渡邊所長、原田准教授、宮崎事務長が出席して本部のセミナーハウスで開催されました。

Kーサポートは、K…神奈川学習センターを、サポート…支援する活動です。昨年度は、1. 学習支援、2. 機関紙編集、3. 地域連携、4. バス研修旅行・行事サポートのチームが活動を行いました。

6日は、それぞれのチームから、学習相談会の実施、センターだよりの発行、ウォーキングの企画運営、バス研修旅行の企画について報告がなされました。



7日は、4つのチームに分かれて2010年度の活動について話し合ったのち、各チームの活動計画が発表されました。

2010年度は、昨年度の活動を更に充実させた新たな取り組みが期待できそうです。今年度もKーサポートや各チームからの相談会や催し案内のポスターやチラシにご注目ください。

また、ご自身も活動に取り組んでみたいという方からのご連絡もお待ちしております。

E-mail: ksupport@ouj.ac.jp

(Kーサポート事務局 垣谷江里子)

ご投稿と編集 チーム員募集

学習センターだよりで、みなさまのご投稿とKーサポート機関紙編集チーム員を募集しています。詳しいことは、電子メール: ksupport@ouj.ac.jp (Kーサポート事務局) または、編集部各員まで。



Kーサポートからのお知らせ

○学習相談会 (学習支援チーム)

平成22年度第1学期の学習相談会は4月17日から6月27日までの土曜日と日曜日の午後1時から4時の間に2階談話室の相談コーナーで行います。ただし、5月2日(日)は休みますのでご注意ください。放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に何でも相談にきてください。なお、すでにお手元に届いているはずの通信指導問題ですが、今学期の解答提出期限は6月8日です。提出して合格しないと学期末の単位認定試験を受験できません。不慣れた新生は特にこの点に注意してください。

今学期はこの通信指導についても学習相談会で助言・指導します。ただし、問題の分野が広いことやその難しさを考えると直接解答を教えることは不可能と思われるかもしれませんが、お互いの議論のなかで正解にいたる道順を見つけられればと思っています。また一部は先生がたの協力を得ることも考えています。困っている方はぜひ相談にきてください。

○ウォーキングの会 (地域連携チーム)

私たちの会は年1回、地域の方々・学生・教職員と共にウォーキングのイベントを行っています。

今年で3回目になりますが、横浜港・横浜の街の発展を支えた吉田新田を取り巻く河川を中心に学習を兼ねたウォーキングをしてみたいです。1回目は中村川沿いに、2回目は現在埋め立てられています運河・大通り公園・派大岡川沿いを、3回目の今年度は大岡川沿いを、日本の文明開化をもたらした横浜港へとウォーキングします。この4月、NHKでも紹介されましたが桜木町まで続く桜並木は圧巻でした。私たちのウォーキングの時期はこの桜が紅葉している事でしょう。橋から眺める緩やかなカーブを描く河川、川面に映る紅葉・橋の姿など景観も楽しめます。また横浜の発展を支えた関外地区を流れる大岡川周辺の生活や水運の状況など学びながらウォーキングをいたします。

5Km程の距離です。説明を受けながら歩きますので、ウォーキングの苦手の方も歩けると思います。到着地点の臨港パークでは野外での2次会を考えています。ベイブリッジ・つばさ橋を眺めながら、横浜港の黄昏を皆様とご一緒に過ごします。素晴らしいひと時となることでしょう。左記が、現在作成中のポスターのイメージです。チラシの配布が始まりましたら奮ってお申込みください。皆様の参加をお待ちしています。

学生サークルからのお知らせ

○神奈川放友会

“放送大学神奈川学習センターに学び、同じ志を持つ学生同志が集い、互に励ましあい共に楽しみながら豊かで実りある学生生活を送ろうというサークルです。”

年間行事の他に次のような楽しい会内同好会及びWEBによる研究会があります。

☆ 俳句の会 ☆ 文芸研究会
 ☆ 食文化研究会 ☆ 古典芸能研究会
 ホームページ→<http://kanagawa-hoyukai.jp/>
 文書責任者 神奈川放友会 金田 保男

○人間学研究会

- 例会の予定(いずれも午後1時開会)お問い合わせ・参加申し込み:安田武夫TEL045-775-0879
 5月23日(日)「人間の皮膚について」(会員限定)
 6月13日(日)「幕末・維新期の浦賀湊における豪商たちの教育熱と学校設立」
 7月3日(土)「大人のままごと遊び12ヶ月」
- 歩きましょう
 (お問合せ:大出鍋蔵 TEL046-841-7937)
 5月9日(日)「由比ガ浜・七里ガ浜・鶴沼・辻堂海岸ウオーク」
 6月6日(日)「第3回鎌倉の碑めぐり」

○放大かながわレク・サークル

- ★パソコン部:個人のニーズに応じた学習。
 学習日時:第1、第3水曜日 13時30分～15時30分。
 場所:神奈川学習センター 実習室
- ★ウォーキング部:月1回、「東海道五十三次」実施中。
- ★ウォークラリー:横浜市中区主催に毎年参加
- ★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。
 上記の活動はいずれも自由参加。
 一会員募集中(随時申込・受付)一
 問合せ:佐々木恭夫Tel/Fax045-871-7700

○中国語学習会

★初級クラス(13時から、女性講師)と中級クラス(10時から、男性講師)があります。どちらのクラスにも自由に参加できます。初級クラスでは発音の基礎をしっかりとやりますので初心者の方にも安心です。

★5月と6月の予定(学習センター講義室)5月9日(第2日曜)、16日(第3日曜)、6月6日(第1日曜)、20日(第3日曜)

★今年も中国北京への旅行を楽しみました。今度ご一緒しませんか。

★問合せ:万場(まんば)046-293-5521

○韓国語同好会

毎月第1・第3土曜日の10:00～12:00と

13:00～15:00開催

※基本;午前通常学習、午後は初歩第1課からの学習

講師は横浜国大研究生、金蘭美先生

ホームページ <http://www.hangugo-culb.org>

連絡先 murata@hangugo-club.org

代表 村田045-864-6551

○中国語コミュニケーション同好会

新学期、私たちの学習会も新スタートしました。“1年生になったら”とうたいつつ、新会員を待っています。学習会は月に1回。午後1時～4時。5月15日。6月12日です。

今年は、中国語で会話が少しでも出来るように学んでいきます。同時に漢字の国の文化の違い、若者文化等、会員相互の持ち味を出し合っ

て楽しく学んで行きます。

代表 梅原 操
 pcメール sunfony@yahoo.co.jp

学習センターからのお知らせ

◆面接授業追加登録について◆

平成22年度第1学期面接授業科目の追加登録受付は下記のとおりです。(教養学部生)。平成22年度より、追加登録の手続き方法・期間が、大きく変更されましたのでご注意ください。詳細は「平成22年度第1学期面接授業時間割表」をご参照いただくか「各学習センター」へお問い合わせください。

空席発表 : 4月17日(土)

追加登録期間: 4月～7月開講授業 → 4月23日(金)～科目登録ごとに定められた追加登録受付期限日まで
8月開講授業 → 4月23日(金)～7月10日(土)

◆通信指導について◆

平成22年度第1学期放送授業の「通信指導」提出期間は下記のとおりです。5月7日(金)までに通信指導が届かない場合は、大学本部(043-276-5111)に連絡してください。

提出期間: 5月24日(月)～6月8日(火)大学本部必着

- ※ 提出期限を過ぎて到着したものは受理できませんので、余裕をもって送付してください。
- ※ 通信指導の評価結果により、当該科目の単位認定試験の受験資格が得られます。

◆学生募集について◆

学ぶ喜びをより多くの方々に知っていただきたいと思い皆様のご家族・ご友人・知人に放送大学の魅力や利用方法をご紹介下さるようお願いいたします。

【平成22年度第2学期入学(10月入学)の教養学部生、大学院修士選科・科目生】

募集要項配布期間: 6月1日(火)～8月31日(火)

出願受付期間 : 6月1日(火)～8月31日(火)

【平成23年度第1学期入学(4月入学)の大学院修士全科生】

募集要項配布期間: 6月中旬 ～ 9月上旬

出願受付期間 : 8月20日(金)～9月10日(金)

ご家族・ご友人・知人の方を「神奈川学習センター」にご紹介下さい!

◆◆神奈川学習センター2階(内装)の改修工事終了◆◆
工事期間中は、ご不便・ご迷惑をおかけいたしました。
ご協力ありがとうございました。